



連携と機能を整備し、自発的な支援を



副院長
はしもと よしひろ
橋本 義弘
(眼科医師)

国会で話題になっている働き方改革。閣僚を交えた会合に、昨年ロンドンビジネススクールのリンダ・グラットン教授が招かれました。氏は英タイムズ社の選ぶ「世界のトップビジネス思想家 15 人」の 1 人で、ベストセラーになった著書『ワーク・シフト』に 2020 年に求められる働き方を示しています。その中で孤独で競い合う「競争」から、ほかの人と関わり、協力し合い、新たな価値を創造する「共創」にシフトすることが書かれています。

ちょうどこの原稿を書いているとき、平昌オリンピック女子スピードスケートの活躍が盛んに報道されていました。ラジオ番組で耳にはさんだことですが、小平奈緒選手がオランダ留学したとき、オランダでは惜しげもなく技術を伝授してくれたそうです。そのことから、技術を隠すよりも公開し、切磋琢磨して向上する企業のほうが長い目で見れば発展するとコメントしている人がいました。

国は 2025 年を目標に地域包括ケアシステムの構築を目指しています。地域包括ケアシステムは自助、互助、共助、公助の 4 助によって展開するとされています。「互助」は相互に

支え合っているという意味では「共助」と共通ですが、費用負担が制度的に裏付けられていない自発的なものとされています。地域包括ケアシステムの中では、医療を担う病院も、介護・予防・生活支援は互助、共助の関係を構築して患者さんを支援してゆかなければなりません。お互いが支え合うには、必要とされるものが地域にあるかないか、あるならばどうすれば利用できるか、その情報をキャッチして、必要な人にタイムリーに届けなければなりません。

地域連携はかねてから言われていることですが、自発的な支援という観点で連携と機能の整備を進めてゆくことが重要と考えています。機能を切り分けお互いに連携、協力し合い、みんなで地域の医療を守っていく「点から面の医療」に変えてゆくことが不可欠とは、小平選手が所属する相澤病院 相澤孝夫理事長の言葉です。今だけをきりとれば小平選手の金メダルがクローズアップされますが、長い目で見ればオランダにも必ず何か良い結果をもたらしているのではないのでしょうか。どんなことでもお互いに誰かの役に立つように行動してゆくことは、長い目で見ればお互いを高め合うのだと思います。

『ワーク・シフト』にあるようにお互いの力を高め合う立体的な関係が築ければ患者さんにも理想的な支援ができると思います。

第6回健康セミナーを開催！～テーマはCKD～

地域医療部 松林真奈（医療ソーシャルワーカー）

11月11日(土)アイザック小杉文化ホールラポール(まどかホール)にて、第6回健康セミナーを開催いたしました。「肝・腎・要～あなたの腎臓守りましょう～」と題し、当院内科の二村明広医師がCKD（慢性腎臓病）について講演しました。当院には病気に関する知識を患者さんに分かりやすく伝えるために結成された劇団チップスがあります。今年の講演は劇団チップスとコラボレーションし、医師だけでなく多職種の講演も聞くことができる充実した内容でした。

劇団チップス扮する中島さん夫婦がCKDとは何か、療養上気を付けるポイントは何かということについて講演を通して学んでいく内容で、CKDについて分かりやすく理解を深めていただけたかと思います。

CKD外来を受診された中島さん夫婦。「CKD っちゃ何け？わしやどこが悪いがけ？」という中島さんの質問に、二村医師より基本的な腎臓の働きや慢性腎臓病の症状について話がありました。

CKDについて良く理解された中島さん、「難しい話で頭が痛くなったよ」と市販の頭痛薬を服用しようと言われました。すかさず看護師が止めに入り、後藤薬剤師より市販薬について話を聞きました。頭痛薬を服用すると腎臓に送られる血流が減り、腎臓の働きが低下してしまいます。普段何気なく利用している市販薬が身体を悪くしてしまうこともあるため、自己判断で薬を内服するのではなく、主治医や薬剤師に相談する重要性がよく分かりました。

休憩後は種田理学療法士とリハビリ科スタッフが、身体に負荷をかけ過ぎない簡単な運動を紹介。会場の皆さんも一緒に身体を動かしながら話を聞かれました。

運動後は栄養補給！と塩昆布とカリカリ梅を食べようとした中島さん夫婦。結川管理栄養士が登場し、腎臓病には減塩が重要ということで、塩分を控える具体的な方法を教えてくださいました。塩味以外の調味料を使う方法、塩分が少なくなる調理法（炒め物や揚げ物）、だしを効かせた調理法や、塩分（ナトリウム）を身体から追い出すために、カリウムの多い食品を利用する（CKDの進行度合いによってカリウム制限が必要な方もいらっしゃいます）方法について学びました。

血圧管理もとても重要ということで、宮本看護師が血圧について講演しました。ME差（朝と就寝前の最高血圧の値の差）が15mmHg以上で危険性が高まる為、起床後と就寝前に血圧測定するのがオススメということ、血圧サージ（急激な血圧変化）が危険なことや、自宅で血圧測定するポイントを学びました。

帰る前に外でタバコを一服しようとした中島さん夫婦。タバコも腎臓を悪くしてしまいます。禁煙外来担当の濱本看護師より腎臓と喫煙について話がありました。ニコチンが血圧をあげ動脈硬化が進んでしまうこと、腎臓が悪いとニコチンやタールが蓄積してしまい、さらに腎臓が悪くなることが分かりました。最後にCKD外来、禁煙外来の紹介がありました。

CKD予防についてはもちろんのこと、日々の健康維持に役立つ内容もたくさん学べた講演会だったと思います。健康セミナーは年1回ですが、当院では随時出張講座の申し込みを受け付けています。出張講座でも多職種の講演を無料で聞くことができます。ぜひ、ご活用ください。

今後も地域の皆様の健康に寄与できるよう、頑張っていきたいと思います。



二村明広医師（副院長・腎臓内科専門医）の講演



劇団チップスが熱演



理学療法士と会場の皆さんが一緒に運動しました。

【健康セミナー参加者の声】

- ・各方面から分かりやすく、笑いもあり参考になりました。
- ・とてもわかり易くて楽しいセミナーでした。また他のセミナーがあれば来てみたい。
- ・食生活、運動、薬の副作用、大変参考になりました。

部署紹介：中央手術室

医長：古谷正晴、 師長：明元佳子

中央手術室は、外科、整形外科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、皮膚科の手術を、年間約 700 件行っています。手術の多くは全身麻酔や脊椎麻酔が必要な症例です。全身麻酔や脊椎麻酔は、呼吸器や循環器に負担がかかり、患者への大きな侵襲となります。全身麻酔、脊椎麻酔に対し常勤麻酔科医による術前麻酔科診察を行い、患者の全身状態を評価し、必要があれば他科の医師と連携し対応しています。また、手術室看護師による術前訪問を行うことで、執刀医、麻酔科医、看護師といった手術に携わるチームスタッフや、病棟や外来看護師、薬剤師、臨床工学技士などの多職種と連携して情報を共有し、少しでも患者の不安を軽減し、安心安全に手術を受けられるよう対応しています。

中央手術室での手術の特徴として内視鏡下の手術が多く、整形外科では、他院で症例数の少ない肩関節の手術を毎週 2 ～ 3 件行っています。各科の専門医が、最新の知識と技術で患者をお迎えします。また、看護師も手術に対応できるよう日々研鑽しています。

当院は、地域の皆様が安心して生活をおくれるように 24 時間救急体制をとっており、虫垂炎や胆嚢炎、腸閉塞や鼻出血、骨折など、緊急手術が必要な症例は迅速に対応できるようオンコール体制をとっています。

地域包括ケアシステムの一翼を担う病院の手術室として、地域の皆様が少しでも早く、安全に、安心して手術を受けていただけるよう努力していきたいと思っています。



中央手術室で勤務するスタッフ

学術教育推進室の取り組み

学術教育推進室は、全職員の学習意欲の向上を促進し、効果的に学習できる体制を整えるため、平成 28 年に発足しました。室長ほか、事務系職員 3 名で構成しており、病院全体の年度教育計画の立案、院内で開催する講演会・セミナーなどの運営、職員の教育・学術活動のさまざまな支援など、幅広く担っています。

平成 29 年度の院内講演会は、「病院全体で実践する臨床倫理」「がん診療の最近の知見」「医療従事者が知っておくべき臨床研究の規制の変化」といった内容を県内外から講師を招いて開催しました。また、「まなびいカフェ」を月 1 ～ 2 回、開催しています。カルチャースクールのイメージで、内容はエクセル講習などです。「教えることは二度学ぶことである」と言われます。情報発信したい職員が学びたい職員に教えることで、お互いに学びあうのが「まなびいカフェ」です。「学ぶ」ということは、学んだ知識や技術を自分で独り占めして楽しむためではありません。人に与え、助け、役に立つためです。

皆、誰かの役に立ちたいと思っています。人の役に立つということが、人の幸せだからです。このことが職員全体に浸透するようにしています。



学術教育推進室のメンバー

平成 29 年度富山県医学会で口演、ポスター発表

1 月 28 日（日）、富山県医師会館にて開催された「平成 29 年度富山県医学会」では、当院からも医師、看護師、臨床検査技師、管理栄養士、視能訓練士、医療ソーシャルワーカー、施設管理課スタッフ、フロアマネジャーが発表を行いました（口演発表 5 名、ポスターセッション 7 名）。

本学会で優秀賞を受賞した視能訓練科・楯日出雄科長の感想を紹介いたします。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

今回初めて富山県医学会に参加させていただきました。多業種の方が多数参加されており、地方会としては想像以上に盛況な学術会という印象をもちました。また、さまざまな医療の分野から数多く演題が出されていて、参加施設の素晴らしい取り組みにも大きな刺激を受けました。その中で今回私もポスター発表をさせていただきました。出展した演題は、自身でも思い入れのある最新の研究テーマでしたが、眼科分野に特化した内容でしたので、演題セッションの中では正直場違いかと思っていました。しかし、発表後に座長の労をとってくださった他科の先生から非常に的を射た質疑を受け、本研究の内容を理解されていることに驚きと喜びを感じました。そして、本学術会でまさかの「優秀賞」をいただくことができ、まさに二重の驚きと喜びでした。

多数の演題の中から本研究を評価していただいたことを素直に嬉しく、大変光栄感じております。少しの自信とモチベーションにつながりました。関係各位に心より深謝申し上げます。今後、さらに臨床へ還元できる、また「安心・満足の医療」へつながる臨床研究に取り組んでいきたいと思っております。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

他の発表者からも次のような感想が届いています。

○今までは、専門職だけの学会や研究会で、発表したり聴講したりすることがほとんどでした。今回はすべての医療従事者が対象でしたので、真生会の他部署の取り組みも広く知ることができ、とても新鮮でした。他施設へのアピールもできたと思います。
（食膳栄養科 管理栄養士 結川美帆）

○他病院の多職種の方に訪問看護の取り組みが伝わってほしいなということを意識して発表しました。ポスター発表は、発表後に近距離で意見交換できることが魅力だと思います。発表した充実感でいっぱいです。楽しい 1 日でした。

（真生会訪問看護ステーションこころ

看護師 山本智子）

○当院で初めて行われた大規模災害訓練の様子を動画上映し、民間病院が担う役割を発表させていただきました。一般演題の最終発表でしたが、会場では興味深く聞いていただけたのではないかと思います。当院から 12 題と過去最多、優秀賞の受賞もあり、真生会の意気込みを感じるとともに、近隣医療機関に当院の活動を知っていただく素晴らしい機会となりました。

（看護部 看護師 庄司伸江）



緑内障における黄斑部網膜血管密度と網膜神経節細胞複合体厚との関連性をテーマに発表した楯科長



結川美帆 管理栄養士



山本智子 看護師



庄司伸江 看護師